

平成 24 年 3 月 27 日 (火)



日米桜交流100周年 横浜

日米交流事業企画展

「横浜とアメリカ

～友情人形交流にみる横浜」

横浜を舞台に人形による日米交流を振り返ります！

ポトマック河畔への桜寄贈 100 周年に当たる 2012 年、桜寄贈と縁の深い横浜では、「日米桜交流 100 周年 横浜」と題した記念事業を実施します。その関連事業として、横浜人形の家では、同じく今年 85 周年を迎える日米の友情人形交流(※裏面参照)を題材とした企画展を開催します。

相互理解を目的に日米の間で交わされた人形たちは、横浜を基点として海を渡りました。本展では、横浜人形の家や横浜市内の小学校が所蔵するアメリカから送られた友情人形「青い目の人形」や写真など関連資料を紹介します。また、日本から返礼として送られた答礼人形 3 体も展示。特に横浜との関連を軸に友情人形交流を振り返ります。



平田郷陽作の答礼人形
(個人蔵)



青い目の人形「ブロッソ」
(横浜市立本町小学校に配布
された青い目の人形)

〇見どころ！！

- 昭和初期の横浜を紹介！→人形交流が行なわれた昭和初期の横浜を画像などで紹介します。
- 横浜市内の「青い目の人形」や昭和 2 年の写真資料を展示！ →当時の貴重な資料を展示
- 答礼人形 三体が集合！→横浜で 3 体の答礼人形が集うのは 1988 年以來となります。

→詳細は裏面をご覧ください

開催概要:

会期:2012年3月31日(土)~4月22日(日)

会場:横浜人形の家 3 階 第 3 展示室

開館時間:9 時 30 分~17 時(入館は 16 時 30 分まで)

休館日:毎週月曜日[月曜祝日の場合は開館し、翌火曜日休館]

入館料:おとな(高校生以上) 300 円/こども(小・中学生) 150 円

お問い合わせ先
公益財団法人 横浜観光コンベンション・ビューロー 事業部 企画戦略部門
広報担当マネージャー 中村 淳 TEL: 045-221-2111

*本日は 19:00 まで在席しております。

※友情人形交流とは

1927(昭和2)年に日米の間で行なわれた人形交流。キリスト教宣教師として来日後、20年近くを日本で暮らし、アメリカへ帰国したS.L. ギューリックにより提唱された。

ギューリックは悪化していた日米の関係を改善するため、アメリカの子どもから日本の子どもへ人形を贈る事業により、次世代の子どもたちの相互理解が深まり、日米の関係がよくなることを企図した。呼びかけに応じて全米各地から約12,000体の人形が集められ、日本へ送られた。日本では、渋沢栄一や文部省が中心となって人形を受け入れ、全国の幼稚園や小学校に配布。各地で歓迎の行事が行われ「青い目の人形」として親しまれた。日本からは返礼の使者として、日本代表と各府県と六大都市の代表、58体の「答礼人形」が制作され、アメリカへ贈られた。海を渡った「答礼人形」はアメリカ各地で歓迎を受けた後、各州の図書館など公共施設へ収められた。

◆展覧会の見どころ

●昭和初期の横浜を紹介

友情人形交流が横浜を基点とした背景には、明治以降、横浜と横浜港が担っていた役割と無関係ではありません。明治以降、横浜は特に北南米、ヨーロッパ航路の港として、生糸や茶などの貿易や南米や北米に渡る移民など、物と人が行きかう発着点でした。

友情人形交流の発着の場となった横浜と横浜港の歴史、人形交流が行なわれた昭和初期の横浜の様子をパネルなどで展示し、当時の横浜を紹介します。

また、昭和初期の横浜の写真パネルは一部、1階のカフェ「エリオット・アベニュー」でも展示予定です。あわせてご覧ください。

●答礼人形 三体が集合！

日本から返礼として58体制作された「答礼人形」は、現在、47体の現存が確認されています。

その中の3体「ミス京都市」「ミス青森」平田郷陽作の答礼人形が、修復の為日本に一時帰国しています。

今回、所蔵者のご協力を得て修復を終えた3体の答礼人形を展示いたします。複数の答礼人形が集うのは、横浜では、1988年に答礼人形19体が帰国、全国10箇所を巡回して以来のこととなります。また、平田郷陽作の答礼人形は2010年に再発見された人形です。

●横浜市内の「青い目の人形」や当時の写真資料を展示！

横浜人形の家や市内の小学校が所蔵する「青い目の人形」10体を展示します。

また、当時の歓迎の様子を記録した当時の写真資料など、当時の関連資料の中から特に横浜に関係が深い資料を展示いたします。



青い目の人形「エレナ」



横浜港 天洋丸の社交室での代表人形授与式
昭和2年3月